

Title	インターネットと排外性の関連における文化差 : 日本・アメリカ比較調査の分析から
Author(s)	藤田, 智博
Citation	年報人間科学. 32 P. 77-P. 86
Issue Date	2011-03-31
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/12846
DOI	10.18910/12846
rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

〈研究ノート〉

インターネットと排外性の関連における文化差

——日本・アメリカ比較調査の分析から

〈要旨〉

排外性とネットとの関連の仕方に文化差が見られるのかどうかを、本稿では、二〇〇八年に日本とアメリカで行われた比較調査を分析することによって明らかにする。まず、排外性の諸項目の平均、ネット利用と排外性との相関を分析したところ、ネット利用と排外性との間に日本とアメリカとで異なる傾向が見られた。アメリカにおいては、「ブログへのコメントの書きこみ」に典型的であるが、ネット利用が排外性を低くする傾向を有しているのに対し、日本においては「掲示板への書きこみ」に顕著であるが、ネット利用が、逆に、排外性を高める傾向を有していた。そのような傾向は、排外性の諸項目を従属変数とし、性別、学歴、職状況、世帯収入、新聞・テレビ・ネットの各メディア利用量、ネット利用を独立変数とした重回帰分析からも概ね確認できるものであった。

これらの結果は、排外性とネットとの関連の仕方において、文化差が存在することを示唆している。

キーワード

インターネット、排外性、文化差

藤田
智博

一 本稿の目的

ネットは、かつてであれば発言の機会が与えられなかった普通の人々にさまざまな意見や考えを表明できる場をもたらす。それは同時に、それまで目につかなかった差別発言、誹謗や中傷をも可視化させる。「ネット右翼」はその代表的な例だろう。⁽¹⁾ そのような差別発言、誹謗や中傷は、しばしば移民や外国人を標的にする。

本稿は、移民や外国人への排外的な態度とネット利用の関連の仕方が、文化によって異なるのかどうか、実証的に検討することを目的としている。グローバル化が進む中、外国人や移民の受け入れは多くの先進国にとって無視することのできない政策課題であろう。それは、移民や外国人の受け入れに伝統的に消極的であった日本においても例外ではない。それに応じて、程度の差はあれ、移民や外国人への排外的な態度が生じることには十分に予測されることである。すでに触れたように、ネットは外国人や移民への排外的な態度を可視化させることによって人々の意見形成に影響を及ぼす可能性がある。たとえば、サンステイーン⁽²⁾ (二〇〇三)は、ネットが人々の意見を極端なものに誘導しかねないことへの危惧を表明している。

日本の文脈において、排外的な態度を含む右傾性とメディア利用との関係に実証的にアプローチしたものとして、辻⁽³⁾ (二〇〇八)がある。ここでは、排外的な態度と掲示板「2ちゃんねる」利用との関連が明らかにされている。では、それと類似した傾向は、日本以外の国においても見られるのだろうか。本稿は、排外性とネットとの関連について、日本とアメリカとで比較分析する。移民や外国人の受け入れは、先進国共

通の課題であろうが、ナショナルリズムの構造が国によって異なるのと同様⁽⁴⁾、排外性とネットとの関連の仕方にもそれぞれの社会や文化の相違が反映される可能性がある。その検証が以下の課題である。

二 分析に使用するデータと排外性の項目について

ここでは分析に使用するデータと排外性の項目について述べる。使用するデータは、二〇〇八年に日本とアメリカで実施されたウェブ質問紙調査によるものである。実査日時は日本が一〇月三十一日～十一月五日、アメリカが一〇月一七日～二十六日である。日本はウェブ調査業者のeリサーチに、アメリカはeリサーチを介した現地のウェブ調査会社に委託しており、それぞれの登録モニターのうち二〇～四四歳を対象としている。対象年齢を男女それぞれで五歳区分に分けた一〇セルに各一〇〇人を割り当てて回収目標サンプルとしており、有効回答は日本で一〇五三票、アメリカで一七一七票であった。⁽⁵⁾

この調査には、日本とアメリカともに、排外性の項目として、移民への態度をたずねる設問が七つ用意されている。それらは以下のようなものである。設問文中の「そうした外国人」とは「日本に定住しようと思つて日本に来る外国人」(アメリカの場合、アメリカに定住しようと思つてアメリカに来る「移民 immigrants」、同様にして、文中の「日本」は「アメリカ」を意味している。便宜上、1から7までの番号をふつた。

1. そうした外国人が増えれば、犯罪発生率が高くなる
2. そうした外国人は、全体としては日本の経済に役立つ

3. そうした外国人は、日本人から仕事を奪っている
4. そうした外国人は、新しい考えや文化をもたらし、日本の社会を良くしている
5. 政府は、そうした外国人の援助に金を使いすぎている
6. 日本に合法的に移住した外国人は、日本人と同じ権利を持つべきだ
7. 不法滞在している外国人を、日本政府はもっと厳しく取り締まるべきだ

これら設問への回答には、「5. そう思う」「4. まあそう思う」「3. どちらともいえない」「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」の五つが用意されている。ただ、2、4、6の設問への同意（たとえば、「5. そう思う」）は、排外性とは逆の態度を示すため、数値の高さは排外性の低さを意味することになる。ゆえに以下では、2、4、6の設問に対する回答について、数値を逆転させたものを排外性の指標として用い、また、それぞれの設問を「犯罪率高める」「経済貢献しない」「職奪う」「文化貢献しない」「財政負担増す」「権利認めない」「取締強化する」と略称し、分析していく。

三 排外性の平均値の差

まず、排外性への回答の平均値について、日本とアメリカで比較したものを表1に示す（t検定の結果、すべて1%水準で有意）。七項目について、どちらの国の平均が高いのか、一貫した傾向が認め

られるわけではない。「経済貢献しない」「職奪う」「財政負担増す」「権利認めない」はアメリカにおいて高く、「犯罪率高める」「文化貢献しない」「取締強化する」は日本で高い。標準偏差はすべての項目でアメリカが大きい。その点については、伝統的に移民社会であり、また移民を受け入れてきた歴史を有するがゆえに移民への態度の決定が明確に求められるアメリカと、移民の受け入れにも積極的ではなく、移民への態度決定が明確に迫られないために、回答のばらつきが小さくなる日本との相違を示唆しているのかもしれない。

四 排外性とネット利用との相関

それでは、排外性とネットとの関連の仕方に、差は見られるのか。そこで、ネット利用時間及びネット利用諸項目と排外性との相関を分析した（表2と表3）。

ネット利用諸項目については、排外性をめぐる意見形成への影響が予測される「ネット上でニュースを読む」「ブログを読む」「ブログにコメントを書きこむ」「掲示板を読む」

表1 日本とアメリカにおける排外性の諸項目の平均(標準偏差)

	犯罪率高める	経済貢献しない	職奪う	文化貢献しない	財政負担増す	権利認めない	取締強化する
日本	3.4(1.03)	2.54(0.84)	2.74(0.98)	2.9(0.91)	3.09(1)	2.5(1.04)	4.07(0.92)
アメリカ	3.08(1.15)	2.94(1.12)	3.34(1.25)	2.68(1.11)	3.78(1.19)	3.25(1.21)	3.63(1.22)

「掲示板に書きこむ」を変数として用いることとした。その割合の分布は表4に示した。また、ネット利用時間については、日本とアメリカで分布がほぼ均等になるよう、利用時間の少ない方から五段階に構成したものをを用いた。ネット利用諸項目は、表4から明らかかなように、「掲示板に書きこみをする」や「ブログにコメントを書きこむ」において、日本とアメリカともに、「まったくくない」に回答が偏っており、分布においても日本とアメリカで一致しているわけではない。ゆえに、変数としてはやや問題があるが、以下の分析ではそれらを用いることとする。

相関分析の結果で注目すべきは、統計的に有意な項目において、相関係数の符号が日本とアメリカで逆である点であろう。たとえば、日本において、「掲示板に書きこむ」頻度が多いほど、排外性の諸項目である「犯罪率高める」「経済貢献しない」「職奪う」「財政負担増す」「権利認めない」が高まる傾向にある。他方、アメリカにおいては、同じ「掲示板に書きこむ」に着目した場合、その頻度が多いほど、「経済貢献しない」「文化貢献しない」「財政負担増す」「権利認めない」といった諸項目が低くなる傾向がある。あるいは、「ネット上でニュースを読む」に着目した場合、日本においては「ニュースを読む」頻度が多いほど、「財政負担増す」「取締強化する」が高まる傾向があるのに対し、アメリカにおいては「経済貢献しない」「職奪う」といった項目と負の相関を示している。とりわけ、アメリカにおいては、「ブログを読む」「ブログにコメントを書きこむ」「掲示板に書きこむ」といったネット利用の諸項目の頻度が多いほど、「経済貢献しない」「文化貢献しない」「権利認めない」といった、辻(二〇〇八)が示唆しているような移民への理知的な態度と関連する排外性

表2 ネット利用諸項目と排外性の相関係数(日本)

	犯罪率高める	経済貢献しない	職奪う	文化貢献しない	財政負担増す	権利認めない	取締強化する
ネット利用量	-.01	.01	.03	.00	.06	.03	.06
ニュース読む	.00	.00	.04	.05	.07*	.03	.09**
ブログ読む	.00	-.03	.02	.01	.02	.02	-.02
ブログ書く	.03	.03	.06	-.03	.05	-.01	-.05
掲示板読む	.07*	.07*	.09**	.06	.10**	.12**	.06
掲示板書く	.10*	.08*	.12**	.02	.14**	.09**	.06

(** p<.01, * p<.05.)

表3 ネット利用諸項目と排外性の相関係数(アメリカ)

	犯罪率高める	経済貢献しない	職奪う	文化貢献しない	財政負担増す	権利認めない	取締強化する
ネット利用量	.03	-.03	.02	-.05	-.05	-.07*	-.02
ニュース読む	-.04	-.08**	-.08**	-.05	-.03	.02	.04
ブログ読む	-.02	-.17**	-.12**	-.13**	-.07*	-.09**	-.05
ブログ書く	.04	-.14**	-.05	-.13**	-.05	-.12**	-.03
掲示板読む	-.01	-.14**	-.07*	-.12**	-.05	-.06	-.03
掲示板書く	.01	-.15**	-.05	-.14**	-.07*	-.11**	-.04

(** p<.01, * p<.05.)

表4 日本とアメリカにおけるネット利用諸項目の分布(%)

		ほぼ毎日	週1~3回	月1~3回	それ以下	まったくない
ネット上でニュースを読む	日本	74.6	17.9	2.7	2.6	2.2
	アメリカ	45.9	30	11.6	5.8	6.7
ブログを読む	日本	38.7	29.6	10.1	11.2	10.4
	アメリカ	11.3	21.5	17.1	14.9	35.2
ブログにコメントを書きこむ	日本	5.2	13.2	13.6	21.3	46.7
	アメリカ	5.9	13.8	13.3	14.9	52
掲示板を読む	日本	20.6	24	14.1	14.6	26.7
	アメリカ	12.4	18.3	18	15.2	36.2
掲示板に書きこむ	日本	3.3	9	11.8	23.1	52.8
	アメリカ	7.3	11.7	13.1	15	53

の諸項目が低くなる傾向がある。

これらの結果は、本稿の問題意識でもあるネットと排外性との関連における文化差の存在を示唆するものである。ただ、このような解釈に問題がないわけではない。日本とアメリカの双方で、ネット利用と排外性との間には、確かに有意な関連がうかがえるものの、他の変数で統制した場合、それらの相関が見かけ上のものに過ぎなくなる可能性があるからである。その点を回避するためには、その他の変数で統制した場合においても、ネット利用と排外性との間に有意な関連があることが明らかにされなければならない。

同様に、排外性についても、七項目それぞれについて、設問の意味が異なっている点に注意が必要である。たとえば、「職奪う」であれば、そのほかの排外性の項目と比べ、経済的な変数との関連が強い可能性がある。ある。

五 排外性を従属変数とした重回帰分析

そこで、排外性の諸項目を従属変数とし、性別、学歴、職状況、世帯収入、新聞講読時間、テレビ視聴時間、ネット利用時間、また「ネット上のニュースを読む」「ブログにコメントを書きこむ」「掲示板に書きこむ」を独立変数とする重回帰分析を行った。性別は男性を1とし女性を0とするダミー変数を、学歴は日本において大卒以上を1としそれ未満を0とするダミー変数を、アメリカで Associate's degree 以上を1としそれ未満を0とするダミー変数を、職状況は日本とアメリカ双方でフルタイムの雇用として正社員と自営業を1とし、それ以外を0とするダミー

表5 世帯収入の分布(%)

	日本	アメリカ
200万円未満	5.9	14.2
200万円以上～400万円未満	20.7	25.5
400万円以上～600万円未満	27.6	22.2
600万円以上～800万円未満	16.3	14.7
800万円以上～1000万円未満	8.4	8.4
1000万円以上～1200万円未満	3.9	4.3
1200万円以上	5.4	4.7
答えたくない	11.8	6

(注)アメリカは1万円が100\$に対応

変数を用いた。また、世帯収入も投入した(その分布については表5)。テレビ視聴時間と新聞講読時間については、上記のネット利用時間と同様のやり方で、少ない利用時間から日本とアメリカで分布がほぼ均等になるよう五段階で構成した。ただ、新聞講読時間については、講読時間が一分にも満たない割合が日本とアメリカともに二割をこえているため、分布は講読時間が少ない側にやや偏ったものになっている。また、ネット利用の諸項目については、「ネット上でニュースを読む」「ブログにコメントを書きこむ」と「掲示板を書く」の三項目を用いた⁽⁴⁾。また、結果については、後述するような分析の便宜上、「犯罪率高める」「職奪う」「財政負担増す」「取締強化する」を

表6に、「経済貢献しない」「文化貢献しない」「権利認めない」を表7に示した。

まず、表6からは、日本において、「掲示板に書きこむ」が、「犯罪率高める」「職奪う」「財政負担増す」「取締強化」といった排外性を有意に高めていることが確認できる。それは、アメリカでは見られない傾向である。「職奪う」に関しては、日本とアメリカともに、世帯収入が多くなるにしたがい、低くなる傾向が確認できる

表6 排外性の重回帰分析結果1(数値は標準偏回帰係数β)

	犯罪率高める		職奪う		財政負担増す		取締強化する	
	日本	アメリカ	日本	アメリカ	日本	アメリカ	日本	アメリカ
性別ダミー	.03	.08*	.01	-.04	-.02	-.05	-.03	.00
学歴ダミー	-.03	-.05	-.01	-.11**	-.08*	-.07	.01	.00
職ダミー	.06	.00	.03	.01	.08**	.04	.02	.03
世帯収入	-.02	.06	-.10**	-.07*	-.04	.00	.05	.00
テレビ視聴時間	.01	.07	.02	.04	.03	.05	.01	.01
新聞講読時間	-.05	.03	.02	.02	-.02	-.02	-.02	.02
ネット利用時間	-.07	.01	-.03	.01	.01	-.05	.03	-.03
ニュースを読む	.00	-.06	.05	-.06	.06	-.02	.09**	.03
ブログを書く	-.02	-.06	-.01	-.03	-.05	-.07	-.11**	-.07
掲示板を書く	.13**	.08	.13**	-.02	.18**	.01	.09*	.00
調整済みの R ²	.01*	.01*	.02**	.02**	.04**	.01	.01*	.00

(** p<.01, * p<.05.)

ことから、ネット利用のみならず、経済的な状況と関連することが示唆された。続く表7は、ある面において表6と対照的である。まず、日本の場合、「経済貢献しない」「文化貢献しない」「権利認めない」の排外性三項目

表7 排外性の重回帰分析結果2(数値は標準偏回帰係数 β)

	経済貢献しない		文化貢献しない		権利認めない	
	日本	アメリカ	日本	アメリカ	日本	アメリカ
性別ダミー	-0.06	-0.11**	.04	-0.07*	.04	-0.10**
学歴ダミー	-0.05	-0.11**	-0.06	-0.11**	.03	-0.07*
職ダミー	.04	-0.02	.08*	.03	.01	.00
世帯収入	-0.01	-0.02	-0.02	-0.03	.02	.00
テレビ視聴時間	.00	.02	.01	.03	-0.01	.05
新聞講読時間	-0.05	.03	-0.07*	.03	-0.06	.02
ネット利用時間	-0.03	.01	-0.03	-0.03	.00	-0.05
ニュースを読む	-0.01	-0.04	.06	.00	.02	.05
ブログを書く	.01	-0.10*	-0.02	-0.11*	-0.05	-0.05
掲示板を書く	.09*	-0.05	.01	-0.03	.09*	-0.07
調整済みのR ²	.01	.05**	.01	.03**	.00	.02**

(** p<.01, * p<.05)

において、モデルがすべて統計的に有意ではない。他方のアメリカにおいては、「ブログにコメントを書きこむ」が、性別ダミーと学歴ダミーとともに、「文化貢献しない」「経済貢献しない」を低める傾向がある。また、アメリカにおいては、性別と学歴が「権利認めない」を低める傾向が確認できる。

辻(二〇〇八)は、排外性の諸項目について、本稿でいう「犯罪率高める」「職奪う」「財政負担増す」「取締強化する」と、「経済貢献しない」「文化貢献しない」「権利認めない」について、それぞれ情緒や感情とい

う側面と理知という側面から区別しているが、その区別を用いつつ、この結果を次のように解釈してみたい。

まず、日本とアメリカでは、排外性とネットとの関連の仕方が異なる。すなわち、日本においては、「掲示板に書きこむ」というネット利用が、「犯罪率高める」「職奪う」「財政負担増す」「取締強化する」といった、情緒面での排外性を高める傾向があるのに対して、他方のアメリカでは、「ブログを書く」といったネット利用が、情緒面ではなく、理知的な面における排外性を低める傾向を有するのである。日本とアメリカとでは、ネット利用が排外性のどの点とかかわるのかにおいて異なっており、またその向きも逆であることがうかがえよう。

六 掲示板「2ちゃんねる」利用と排外性

以上、ネット利用と排外性との関連の仕方において、文化差があることを検証してきた。ここでは、先行研究で指摘されている日本における電子掲示板「2ちゃんねる」と排外性の諸項目との関連について分析していくこととする。その狙いは、日本における「掲示板へ書きこむ」と排外性との関連を掘り下げて分析することにある。

日本における今回のデータには、「2ちゃんねる」の利用をたずねる項目が2つ用意されている。「2ちゃんねる」はアメリカでは利用されていないため、比較分析はできない。ただ、上記の重回帰分析における独立変数「掲示板に書きこむ」と、「掲示板『2ちゃんねる』に書きこむ」との相関が見られ(相関係数.63、1%水準で有意)、排外性と「2ちゃんねる」利用との関連をうかがわせる。そこで、通常の電子掲示板

への書きこみと「2ちゃんねる」への書きこみが類似した傾向を有するかどうかを検討するため、「掲示板『2ちゃんねる』に書きこむ」を重回帰分析の独立変数として、「掲示板に書きこむ」に代えて投入した。その重回帰分析の結果を表8で示した。

表8からは「2ちゃんねる」が、「職奪う」「財政負担増す」という排

表8 「2ちゃんねる」への書き込みを投入した排外性の重回帰分析(数値は標準偏回帰係数β)

	犯罪率高める	経済貢献しない	職奪う	文化貢献しない	財政負担増す	権利認めない	取締強化する
性別ダミー	.04	-.06	.00	.03	-.02	.03	-.03
学歴ダミー	-.03	-.05	-.01	-.06	-.07*	.03	.01
職ダミー	.05	.04	.03	.08*	.08*	.01	.02
世帯収入	-.01	-.01	-.09**	-.01	-.04	.03	.06
テレビ視聴時間	.02	.00	.03	.01	.03	.00	.02
新聞講読時間	-.05	-.05	.01	-.07*	-.02	-.06	-.03
ネット利用時間	-.07	-.03	-.04	-.03	.01	-.01	.03
ニュースを読む	.00	-.01	.05	.06	.07*	.02	.09**
ブログを書く	.03	.04	.02	-.02	.01	-.04	-.08*
掲示板「2ちゃんねる」に書きこむ	.10*	.09*	.18**	.03	.13**	.16**	.06
調整済みのR ²	.01	.01	.04**	.01	.04**	.02*	.01*

(** p<.01, * p<.05)

外性の項目において、通常の掲示板利用と類似した効果を有していることがうかがえる。また、表6、表7と比較した場合に明らかであるのは、「2ちゃんねる」への書きこみが、排外性の諸項目の中でも、とりわけ「職奪う」「権利認めない」を高める傾向があるという点である。それら二項目において、モデルの説明力が増しており、また、「権利を認めない」においては統計的に有意なものとなっている。すなわち、他の掲示板利用と異なる「2ちゃんねる」独自の排外性への寄与とは、移民が仕事を奪うことへの懸念を高めることであり、また、移民に自分たちと同じ権利を付与することへの反感を高めることではないかと解釈できるだろう。

七 最後に

以上、本稿では、排外性とネット利用とのかわりにおける文化差を実証的に分析してきた。その結果、日本とアメリカとで、ネットと排外性との関連に差が見られることが明らかになった。

本稿の意義は、これまで日本においてしか検証されてこなかった排外性とネットとの関係を、より広範な文脈で分析することにより、アメリカが、排外性とネットとの関連において日本と異なる傾向を有していることを明らかにした点にある。今後の課題は、排外性にかかわらず、より一般的な右傾性にまで射程を拡大し、分析を継続していくことである。それについてはまた今後の課題としたい。

〈注〉

(1) たとえば、辻(二〇〇九:六二)が指摘するように、かつてであれば街宣車にでも出くわさない限り遭遇しなかった経験に、現代では画面の前にながら遭遇してしまふ。

(2) たとえば、田辺(二〇一〇)を参照されたい。

(3) これらについて、詳しくは辻(二〇一〇)を参照されたい。また、このデータの分析を許可して下さった大阪大学の辻大介先生に、この場を借りて感謝を申し上げたい。

(4) 五項目にした場合、「ブログを読む」と「ブログにコメントを書きこむ」、「掲示板を読む」と「掲示板に書きこむ」とが、それぞれ多重共線している疑いが生じたため、三項目にした。

(5) 同時に投入した場合、多重共線する疑いが生じた。また、「2ちゃんねる」利用の分布は次の表9で示す。

表9 「2ちゃんねる」利用の分布(%)

	ほぼ毎日	週1~3回	月1~3回	それ以下	まったくない
掲示板「2ちゃんねる」を読む	14.1	16.2	16	19.4	34.3
掲示板「2ちゃんねる」に書きこむ	2.4	4.9	4	11.4	77.3

〈文献〉

サンステイーン、キャス、二〇〇三(二〇〇二)、『インターネットは民主主義の敵か』毎日新聞社(石川幸憲訳)

田辺俊介、二〇一〇、『ナショナル・アイデンティティの国際比較』慶応義塾大学出版会

辻大介、二〇〇八、『インターネットにおける「右傾化」現象に関する実証研究 調査報告書』(http://d-tsujii.com/paper/04/index.htm)

辻大介、二〇〇九、『調査データから探る「ネット右翼」の実態』『Journalism』二二六号:六二一~六九頁

辻大介、二〇一〇、『オンラインとオフラインの社会関係資本——二〇〇八年日本・アメリカ比較調査の結果から』『年報人間科学』三二号:二二九頁—二四〇頁

Cultural Difference in the Relationship between Internet Usage and Exclusive Nationalism: An Analysis of Comparative Surveys of Japan and the US

FUJITA Tomohiro

This paper aims to examine whether or not there is the cultural difference in the relationship between specific types of internet usage and exclusive nationalism. I analyzed web-based comparative surveys conducted in Japan and the US in 2008 that contained questions relating to exclusive nationalism and attitudes towards immigrants.

The results showed that the correlation in the US between the internet and exclusive nationalism was different from that in Japan. In the US posting comments on blogs was associated with lower scores on some aspects of exclusiveness, on the other hand in Japan posting to bulletin boards was associated with heightened exclusiveness in general. These relationships were also confirmed when controlling for other variables such as gender, education, job, household income, TV watching, and reading newspapers. These findings suggest that there is a cultural dimension in the relationship between the internet usage in this context and exclusive nationalism.

Keywords : internet, exclusive nationalism, cultural difference